

科名 外科

対象疾患名 結腸・直腸癌(切除不能または再発)

プロトコール名 Pmab+IRIS

Rp	形態	ルート	薬剤名	投与量	コメント	1	...	15	...	28
1	点滴注	メイン	生理食塩液	250mL	ルートキープ	↓		↓		
2	点滴注	側管	パロノセトロンバッグ	0.75mg	30分かけて	↓		↓		
			デキサート注	9.9mg						
3	点滴注	側管	ベクティビックス	6mg/Kg	60分以上かけて	↓		↓		
			生理食塩液	100mL						
4	点滴注	側管	カンプト注	100mg/m <sup>2</sup>	90分以上かけて	↓		↓		
			生理食塩液	500mL						
(5) 経口 S-1 1回40mg/m <sup>2</sup> 1日2回 d1~d14投与、d15~d28は休薬										

★1クール=28日

~MEMO~

催吐レベル3(30%以上90%未満)

day2~4にデカドロン1回4mgを1日2回朝、昼食後に内服。(8mg/day)

<S-1>

・S-1は14日間投与、14日間休薬

・S-1は 体表面積(BSA)<1.25m<sup>2</sup>:40mg/回

1.25m<sup>2</sup>≤BSA<1.5m<sup>2</sup>:50mg/回

BSA≥1.5m<sup>2</sup>:60mg/回

<ベクティビックス>

【注1】ベクティビックス使用にあたってはKRAS遺伝子の野生型を確認する検査を実施すること。

【注2】ベクティビックスは生食で希釈。

【注3】ベクティビックス投与時は投与前後に生食でフラッシュし、インラインフィルター(0.2または0.22ミクロン)を使用すること。

【注4】ベクティビックス終了後、1時間ルートキープにて休薬する。2回目以降に重度のinfusion reactionを発現することもある。

【注5】ベクティビックス投与開始前に皮膚科依頼をし、皮膚障害のコントロールについて連携を図ること。